B ドイツ語１　第１回　授業ガイダンス

１．授業の趣旨と進め方

シラバス（本日は別紙としても配付）の説明

２．教科書

２－１．文法部分の残り

今井田亜弓／前田織絵『シュリット・フュア・シュリット［改訂版］』三修社、2015 年

- 本学の 1 年次用の初等文法の授業（A ドイツ語）では接続法を扱わないことになっているが、中級以上の「現実に書かれたり話されたりしているドイツ語」の理解のためには必要となるので、この授業の最初の数回で、2016 年度の A ドイツ語の教科書を使って講義する（第 12 章）。
- 同教科書の補足（S. 112-117）についても、2016 年度の A ドイツ語で扱われていなかった場合、この授業の最初の数回で講義する。
- このため、上記の範囲が終わるまでの期間中は、同教科書を持参すること。なんらかの理由で所持していない受講者に対しては、こちらから該当個所のコピーを配付する。
- 講読部分に入ったのちも、文法事項を確認するため、常になんらかの初等文法の教科書を携帯することが望ましい。
- アンケート：音声教材（教科書付属 CD）の扱いについて
- 復習方法：練習問題の確認、音声教材の書き取り

２－１．講読部分

Hermann Troll／小笠原能仁『地球という宇宙船』朝日出版社、2002 年（2000 円）。

- 基本的にこの教科書を読み進めるので必ず購入すること。
- 補足を毎回このような配付資料としてプリントする。
- アンケート：音声教材の扱いについて
- 予習方法：教科書の長文部分につき、文法教科書や辞書により、各文の文法や語彙を（質問されたら答えられるように）調べてくる。教科書付属の練習問題を解く。

３．辞書

<u>授業を受けるのに必須となるため、独和辞典は絶対に持参してもらう。</u>紙の辞書、電子辞書、スマートフォンやタブレット用のアプリのいずれでもよい（ただし、<u>初学者を脱したあとも長くドイツ語を使用する場合、紙の辞書の方が便利になる</u>とはいえる）。さしあたっては 1 年次用の授業（A ドイツ語）で使用していたものでよいが、この授業（B ドイツ語）の後半やそれ以上のレヴェル（C ドイツ語）になると徐々に

- 『独和大辞典コンパクト版　第 2 版』小学館、1999 年、7500 円、電子辞書あり、アプリあり

がなくては対応しにくい局面が増えるため、いまから購入するならこちらを勧める。
なお、上記『大独和』のほか、A ドイツ語の授業では以下の学習辞典を紹介している。値段は紙の辞書のもので、電子辞書はこれより高価で、アプリ版はやや安価と考えてよい。

・『クラウン独和辞典　第 5 版』三省堂、2014 年、4200 円、電子辞書あり、アプリあり
・『アクセス独和辞典　第 3 版』三修社、2010 年、4100 円、電子辞書あり、アプリあり
・『アポロン独和辞典　第 3 版』同学社、2010 年、4200 円、電子辞書あり、アプリなし
・『プログレッシブ独和辞典　第 2 版』小学館、2004 年、3800 円、電子辞書なし、アプリなし

４．参考書

ドイツ語学習用の、日本語で書かれた参考書は数多く市販されている。以下、新刊書として入手できる書籍のうち、初学者から中級者にかけて推薦できるものを挙げる。必ずしも購入する必要はないものの、あれば疑問点を自力で解決するのに便利とはいえる。

・中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧『改訂版　必携ドイツ文法総まとめ』白水社、2003 年
　…通読するより、学習過程で生じた疑問点についてあとから調べ直す用途に向いている。購読時、文法の教科書の代わりにこれを携帯してもよい。1600 円。
・関口存男／関口一郎『新版　標準ドイツ語講座　上・中・下』三修社、2005 年
　…この分野で有名な著者による有名な参考書。講義形式で説明が充実しており、独習や通読にも向いている。ただし、その分だけ量が多く、値段もそれなり（2800 円×3 冊）。なお、ドイツ語の発音の片仮名書きについては無視すること。
・常木実『標準ドイツ語　新訂版』郁文堂、1970 年
　…関口ドイツ語と同趣旨の参考書ながら、あちらよりはコンパクトにまとまっている。文章のアクの強さも控え目。ドイツ語の発音の片仮名書きについては同上。2500 円。

５．受講（希望）者と講師の自己紹介

５－１．受講者

氏名、所属、（あれば）希望の専門
ドイツ語を選択した理由

５－２．講師

講師の連絡先：tokan@nifty.com

・授業内容についての質問、要望などはメールでも受け付ける。
・講師からの連絡は、東京理科大学の CLASS システムを通じて行う。

講師のウェブサイト：http://hhasegawa.la.coocan.jp/

・授業内容についてのページを設け、進度を掲示したり配付資料を掲載したりする予定。
・（講師の経歴や研究内容などについては、上記のほか、http://researchmap.jp/hhasegawa/ でも公開している。）